



(毎週木曜日発行)
発行所 株式会社三重ふるさと新聞
津市東丸之内26-12
TEL (059) 222-3330(代)
Zフォン 050-7000-1200、1201
FAX (059) 222-3331
e-mail: furusato@ztv.ne.jp

通廻三重大名誉教授と企業共同研究

大黃で大腸がん死滅

日常摂取でがん予防

28日、癌学会で発表



通廻博重名誉教授

三重大大学の通廻博重名誉教授(65)と四日市市の翠松堂製薬(株)の共同研究チームは、薬草の『大黃』に含まれるポリフェノール成分の『ラボニン』が、人間の腸がん細胞を破壊し、死滅させることを突き止めた。今月28日から名古屋市中で開かれる日本癌学会で発表する。

国際学術誌『腫瘍学』18巻に掲載された。教授は、

通廻名誉教授(津市河芸町在住)の専門分野は栄養生化学。『食による癌の一次予防を啓蒙する』をテーマに各種がん細胞に対してアポトーシス(プログラムされた自殺細胞)を誘導し細胞死に導く物質を見つけた研究に取り組んでいる。

同教授らは98年、『緑茶カテキン』が人の胃がん細胞を破壊して死滅させることを日本癌学会で発表。最近の緑茶カテキンのチームをもちらした。

同教授は「今回の研究成果からラボニンという特定の物質が、がん細胞をアポトーシスに導くことが学術的に証明できた」とし、今年3月に研究成果をまとめたところで、權威あ

また、同大学創造開発研究センター内にある(株)三重大TLO(三重大内の大学、高専などの研究成果や新技術を産業界に移転するための橋渡しをする機関)から特許を出願しており、今後は医療分野での活用が期待される。

同教授は「これまでの研究成果と合わせて考えると緑茶カテキン、リンゴポリフェノール、大黃を日常の食生活で摂取していけば、がんの一次予防につながるのではないか。また大黃は便秘を改善させる漢方薬として古くから用いられており、この漢方薬を常用している人は大腸がんの罹患率も低いのではないか、と推測できる。今後はこの点を調査して明らかにしていきたい」とし、更なる研究に意欲を示す。

また「今回の研究は地域の産業と大学との連携による成果であり、地域に密着した研究を進めていくことが、三重大大学が生き残っていくための一つの方策である」とも話している。